

環境経営レポート

第 33 期

(2023 年 7 月 ~ 2024 年 6 月)



豊かな社会環境づくりに貢献し企業の発展と社員の幸福を実現する



株式会社 都市資源開発

2024 年 9 月 29 日作成

目次

目次	1
I. 組織の概要	2
II. 対象範囲（認証・登録対象組織・活動）	15
III. 環境経営方針	16
IV. 環境経営目標	17
V. 主要な環境経営計画及び取組内容	18
VI. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	22
VII. 代表者による全体評価と見直し・指示	29
VIII. その他の環境活動取り組み等	33

I. 組織の概要

1. 事業者名 株式会社 都市資源開発
代表者氏名 代表取締役 田籠 慶一
2. 所在地 本 社 : 〒812-0008
福岡県福岡市博多区東光二丁目16番18号
工場(本店) : 〒811-2112
福岡県糟屋郡須恵町大字植木2047番地91
佐谷支店 : 〒811-2115
福岡県糟屋郡須恵町大字佐谷1396番地10
3. 事業の内容 産業廃棄物収集運搬・中間処理及びリサイクル並びに建造物解体工事業
4. 環境管理責任者 取締役 赤星 俊次
担当者氏名 取締役 赤星 俊次
連絡先 TEL 092-413-0855
FAX 092-413-0856
Eメールアドレス shunji.akahoshi@tosishigenkaihatu.com

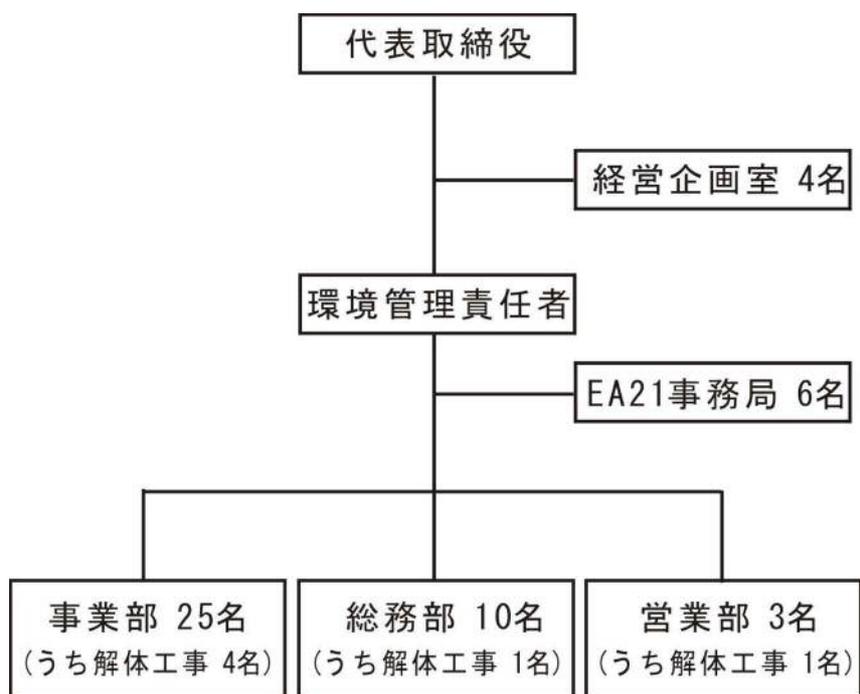
5. 事業の規模

区 分	単 位	第31期	第32期	第33期
		2021年7月~2022年6月	2022年7月~2023年6月	2023年7月~2024年6月
売 上 高	百万円	807.62	777.53	687.63
従 業 員 数	人	47	45	43
本社事務所床面積	m ²	46.13	46.13	46.13
本店事務所床面積	m ²	183.91	183.91	183.91
本社倉庫床面積	m ²	8.10	8.10	8.10
本店倉庫床面積	m ²	88.41	88.41	88.41
資機材置場床面積	m ²	6,131.00	6,131.00	6,131.00
本店工場・作業所等床面積	m ²	3,441.00	3,441.00	3,441.00
佐谷工場・作業所等床面積	m ²	2,990.35	2,990.35	2,990.35

6. 事業の沿革

- 1991年7月 有限会社 都市資源開発設立
1999年1月 資本金を1,000万円へ増資
「株式会社」へ組織変更
福岡市博多区へ本社移転
2006年6月 資本金を3,000万円へ増資

7. 組織図



8. 建設業許可

- (1) 許可番号 福岡県知事 許可(特-30)第47267号
- (2) 許可年月日 令和5年8月28日
- (3) 許可の有効年月日 令和10年8月27日
- (4) 種類 土木工事業 とび・土工工事業 解体工事業

9. 産業廃棄物処理業許可

(1) 産業廃棄物処分業許可について

a) 許可番号 産業廃棄物処分業許可（許可番号 04020005573）

b) 許可年月日 令和5年3月22日

c) 許可の有効年月日 令和12年3月21日

d) 事業計画の概要

【破碎施設の事業計画】

福岡市近郊・県内の建設現場や事業所で発生するがれき類・ガラスくず等・鋳さいを搬入後、破碎して再生砕石として販売する。受け入れた木くずはチップ化し、サーマルリサイクルの材料として販売する。廃石膏ボードは、紙と石膏に分離した後、石膏を粉状にしてマテリアルリサイクルの材料として販売する。廃蛍光管は口金部分を残してガラス部分だけ破碎しマテリアルリサイクルの材料として搬出します。

【選別施設の事業計画】

福岡市近郊・県内の建設現場で発生する木くず・繊維くず・紙くず・廃プラスチック類・金属くず・ゴムくず・がれき類・ガラスくず等の混合物を搬入後選別処理し、各々の品目に応じて委託処分先に搬入し処理する。

【圧縮・梱包施設の事業計画】

廃プラスチック等の嵩の大きい廃棄物を圧縮・梱包施設を通じて嵩を小さくし、保管や運搬を容易にし、委託先で処分しやすいようにする。

【分離施設の事業計画】

太陽光パネルをソーラージャクションボックスとアルミ枠とガラス板に分けてマテリアルリサイクルの材料として搬出します。

e) 事業の範囲

【中間処理（破碎）】

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等（以上3品目については自動車等破碎物を除き、水銀使用製品産業廃棄物（廃蛍光管、廃HIDランプ及び廃低圧放電ランプに限る。）を含む。）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、鋳さい（土壌の汚染に係る環境基準に適合し、かつ土壌汚染対策法施行規則別表第四の上欄に掲げる特定有害物質の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる基準に適合するものに限る）、がれき類 以上9品目

【中間処理（選別）】

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等（以上3品目については自動車等破砕物を除く）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類
以上8品目

【中間処理（圧縮梱包）】

廃プラスチック類（自動車等破砕物を除き、軟質系廃プラスチックに限る）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（自動車等破砕物を除く）、ガラスくず等（廃ロックウール及び廃グラスウールに限る） 以上7品目

【中間処理（分離）】

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等（以上3品目については、廃太陽光パネルに限る。） 以上3品目

(2) 産業廃棄物収集運搬業許可について

a) 許可車両台数 27台

施設名	形式・寸法	規模・能力 (積載量)	備考
キャブオーバ	小型・貨物	2,000 kg	
乗用車(箱型)	小型・乗用	— kg	
乗用車(箱型)	小型・乗用	— kg	
脱着装置付コンテナ専用車	普通・貨物	3,400 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆ ディーゼル車 平成27年度燃費基準達成車
軽自動車	貨物	350 kg	土砂等禁止
脱着装置付コンテナ専用車	普通・貨物	3,700 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆ ディーゼル車 平成27年度燃費基準達成車
脱着装置付コンテナ専用車	小型・貨物	3,000 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆ ディーゼル車 平成27年度燃費基準5%向上達成車
キャブオーバ	普通・貨物	3,000 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆ ディーゼル車 平成27年度燃費基準10%向上達成車
ダンプ	普通・貨物	1,750 kg	平成12年基準適合/排出ガスPM75%低減ディーゼル車☆☆☆
キャブオーバ	小型・貨物	1,200 kg	
ダンプ	小型・貨物	2,000 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆
ダンプ	普通・貨物	3,850 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆
脱着装置付コンテナ専用車	小型・貨物	3,000 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆
脱着装置付コンテナ専用車	普通・貨物	3,900 kg	平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆
キャブオーバ	普通・貨物	3,050 kg	平成29年規制適合車 平成27年度燃費基準達成車
脱着装置付コンテナ専用車	普通・貨物	3,750 kg	平成27年規制適合車 平成27年度燃費基準達成車
脱着装置付コンテナ専用車	普通・貨物	3,650 kg	Nox・PM適合/平成28年騒音N2B1A 85dB
ステーションワゴン	普通・乗用	— kg	
脱着装置付コンテナ専用車	普通・貨物	10,300 kg	Nox・PM適合/平成28年騒音N3C1A 87dB
乗用車(箱型)	普通・乗用	— kg	プラグインハイブリッド車
乗用車(箱型)	小型・乗用	— kg	ハイブリッド車
ダンプ	普通・貨物	3,750 kg	Nox・PM適合/平成28年騒音N2B1A 84dB
キャブオーバ	小型・貨物	2,000 kg	Nox・PM適合/平成13年騒音 98dB
パン	軽自動車・貨物	350 kg	
キャブオーバ	普通・貨物	3,000 kg	Nox・PM適合/平成28年騒音N2A1A 82dB
脱着装置付コンテナ専用車	小型・貨物	2,000 kg	Nox・PM適合/平成28年騒音N2A1A 82dB
ダンプ	普通・貨物	9,300 kg	Nox・PM適合/SLD付

b) 許可一覧

都道府県 及び政令都市	積替 保管	許可年月日	許可期限	許可番号	廃 プ ラ ス チ ッ ク 類	金 属 く ず	ガ ラ ス く ず 等	燃 え 殻	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アル カ リ	紙 く ず	木 く ず	繊 維 く ず	ゴ ム く ず	鋳 さい	が れ き 類	
福岡県	有	2021年1月9日	2028年1月8日	04010005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	石綿含有産業廃棄物に限り積替え保管有 ※優良認定適合
佐賀県	無	2021年3月28日	2028年3月27日	04104005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合
大分県	無	2024年5月15日	2031年5月14日	04407005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合
山口県	無	2021年4月11日	2028年4月10日	03500005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合
宮崎県	無	2019年4月20日	2026年4月19日	04504005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合
長崎県	無	2019年12月18日	2026年12月17日	04200005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合
熊本県	無	2020年3月17日	2027年3月4日	04305005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合
鹿児島県	無	2023年1月4日	2030年1月3日	04604005573	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	※優良認定適合

【積替え保管施設】（福岡県にて平成19年3月許可取得）

廃プラスチック類、ガラスくず等（以上2品目については自動車等破砕物を除く）、紙くず、木くず、繊維くず、がれき類（以上6品目については石綿含有産業廃棄物に限る）

所在地：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番 109

積替え保管面積：20.28㎡

積替え保管上限：40.56㎥

10. 施設等の状況

(1) 産業廃棄物処分施設について

a) 破碎施設（その1）

処理品目：ガラスくず等、鋳さい、がれき類

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 91 外 1 筆

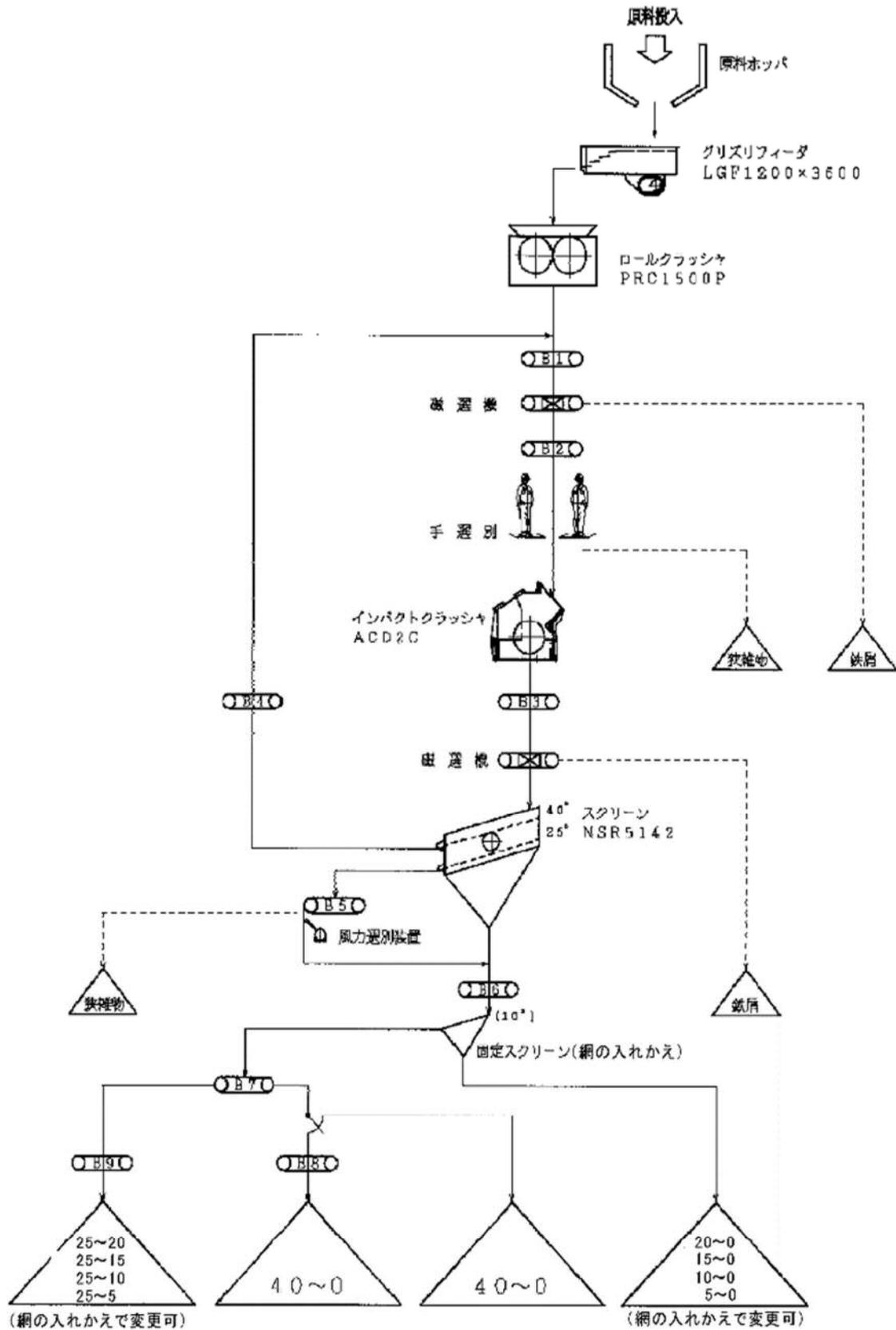
設置年月日：平成 5 年 11 月 1 日

処理能力：ガラスくず等 432t/日（8 時間）・鋳さい 1,208t/日（8 時間）
がれき類 920t/日（8 時間）

処理方式：破碎

構造・設備の概要：ロールクラッシャ PRC1500P（がれき等の破碎）
磁選機（金属検出及び除去）
インパクトクラッシャ ACD2C（がれき等の破碎）
振動スクリーン NSR5142（破碎物のサイズ分け）
風力選別機（碎石に混ざった軽量ごみ類を選別）

【処理フロー】



再生砕石 (RC-40・RM-25)

a) 破碎施設（その2）

処理品目：ガラスくず等（廃石膏ボードに限る）

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 127

設置年月日：平成19年10月31日

処理能力：4.8t/日（8時間）

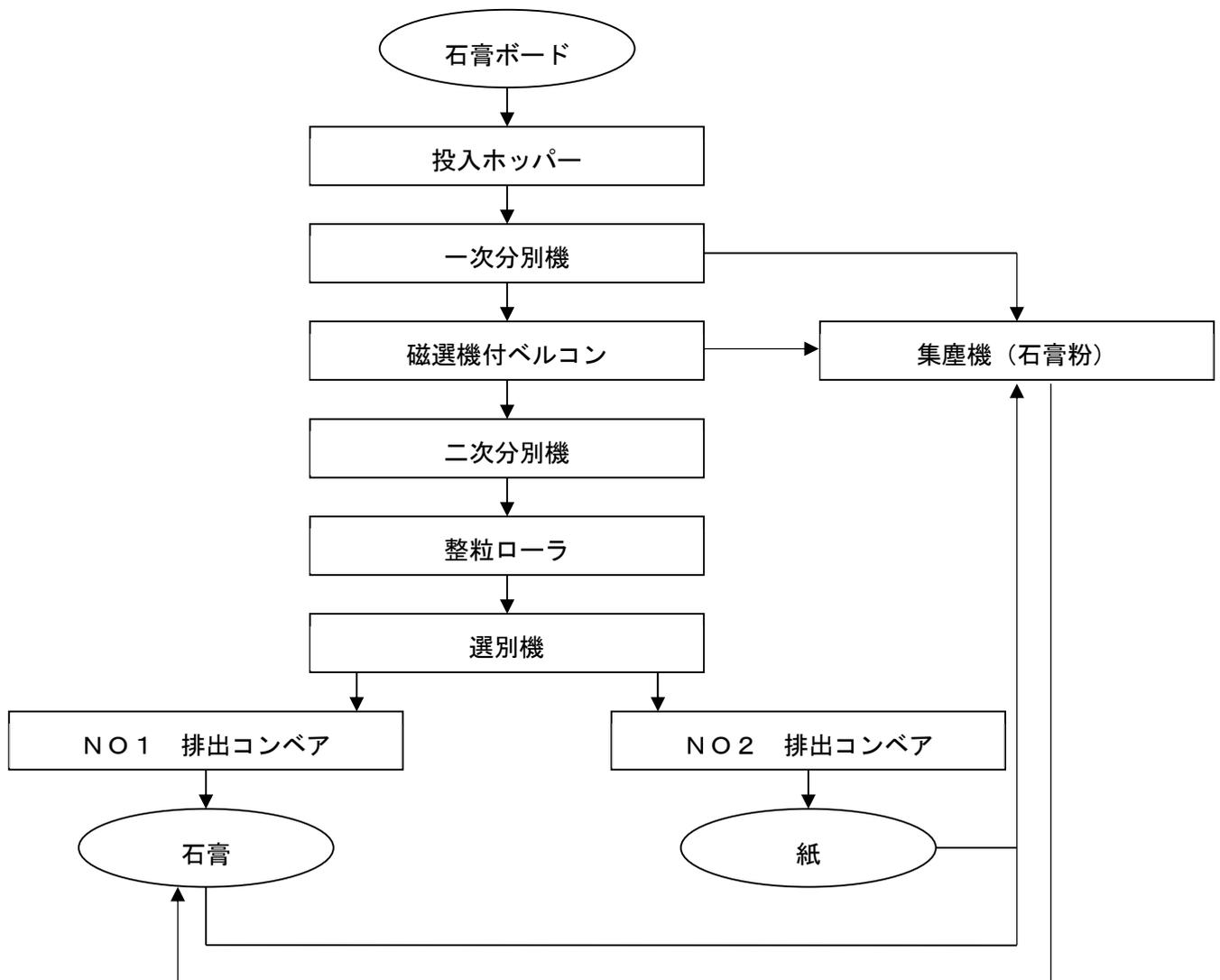
処理方式：破碎

構造・設備の概要：分別機（石膏ボードから紙を剥離）

金属検出機（金属検出及び除去）

選別機（粒度の大きさに石膏と紙を選別）

【処理フロー】



※飛散防止で設置した集塵機に集まった石膏粉はリサイクル品に混合しています。

a) 破碎施設（その3）

処理品目：木くず

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 121

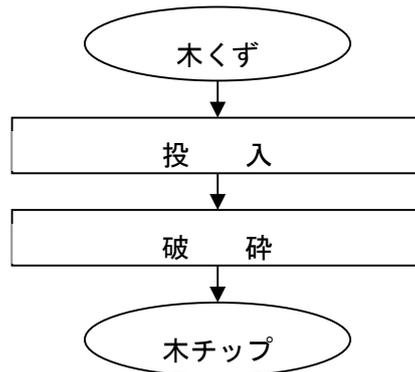
設置年月日：平成 25 年 9 月 26 日

処理能力：100t/日（8 時間）

処理方式：破碎

構造・設備の概要：コンベア付ホッパー（木くず投入）、破碎機（チップ化）

【処理フロー】



a) 破碎施設（その4）

処理品目：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
金属くず、ガラスくず等

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 109

設置年月日：平成 30 年 3 月 20 日

処理能力：廃プラスチック類 3.34t/日（8 時間）・紙くず 5.09t/日（8 時間）

木くず 4.24t/日（8 時間）・繊維くず 4.8t/日（8 時間）

ゴムくず 4.25t/日（8 時間）・ガラスくず等 4.32t/日（8 時間）

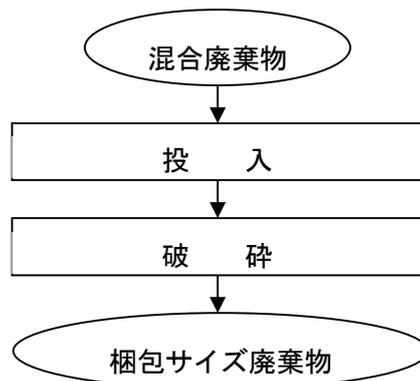
金属くず 3.42t/日（8 時間）

処理方式：破碎

構造・設備の概要：受入コンベア付ホッパー（廃プラスチック類投入）

破碎機（梱包サイズに破碎）

【処理フロー】



a) 破碎施設（その5）

処理品目：金属くず、ガラスくず等

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 121

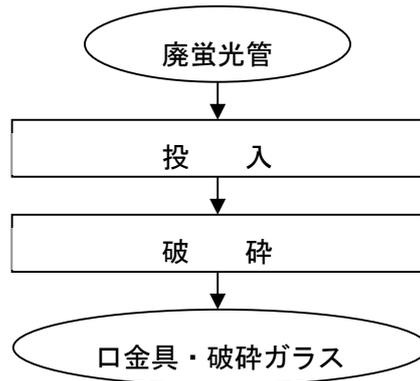
設置年月日：令和4年12月1日

処理能力：1.9t/日（8時間）

処理方式：破碎

構造・設備の概要：投入口シューター、ガラス破碎機、集塵機（水銀）

【処理フロー】



b) 選別施設（その1）

処理品目：廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等

（以上3品目については自動車等破碎物を除く）

紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 91

設置年月日：平成17年4月25日

処理能力：162 t / 日（8時間）

処理方式：選別

構造・設備の概要：振動ふるい機（重量・粒度別に選別）

風力選別機（軽量物除去）、磁力選別機（金属検出及び除去）

b) 選別施設（その2）

処理品目：廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等

（以上3品目については自動車等破碎物を除く）

紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 121、122、127

設置年月日：平成30年3月20日

処理能力：52.8t/日（8時間）

処理方式：選別

構造・設備の概要：振動ふるい機（重量・粒度別に選別）

風力選別機（軽量物除去）、磁力選別機（金属検出及び除去）

c) 圧縮・梱包施設

処理品目：廃プラスチック類（自動車等破砕物を除き、軟質系に限る）
紙くず、繊維くず、木くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 121

設置年月日：令和 4 年 12 月 1 日

処理能力：廃プラスチック類 671t/日（8 時間）、紙くず 701t/日（8 時間）、
繊維くず 131t/日（8 時間）、木くず 543t/日（8 時間）、
ゴムくず 513t/日（8 時間）、金属くず 869t/日（8 時間）、
ガラスくず等 903t/日（8 時間）

処理方式：圧縮梱包

構造・設備の概要：圧縮梱包機（廃プラスチック類を圧縮し番線で結束梱包）

d) 分離施設

処理品目：廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等（以上 3 品目については、廃太陽光パネルに限る。）

設置場所：福岡県糟屋郡須恵町大字植木字赤石 2047 番地 121

設置年月日：令和 4 年 12 月 1 日

処理能力：5t/日（8 時間）

処理方式：分離

構造・設備の概要：ソーラーパネルアルミ枠剥離機（半自動）
ソーラージャンクションボックスとアルミ枠とバック
シート付きガラス板に分離

11. 産業廃棄物処理料金、建造物解体工事料金

- 処理品目、処理量、期間、処理方法等により料金が異なります。
- 弊社の建造物解体工事は、施工管理は勿論のこと施工部隊、産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物処理施設まで、全てを自社で有しており、一貫したシステムで工事を行います。

12. 処理実績

(1) 受託産業廃棄物の処理実績は、次のとおりです。

収集・運搬（第33期：2023年7月1日～2024年6月30日）

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t
収集運搬	燃え殻		0.0
	汚泥		18.6
	廃油		0.0
	廃酸		0.0
	廃アルカリ		0.0
	廃プラスチック類		2,881.4
	金属くず		1,858.9
	紙くず		468.6
	木くず		4,442.6
	繊維くず		10.8
	鋳さい		90.6
	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず		3,018.1
	がれき類		9,158.1
	水銀使用製品産業廃棄物		23.1
	その他（非飛散性アスベスト）		401.0
収集運搬合計			22,371.7

中間処理（第33期：2023年7月1日～2024年6月30日）

中間処理後の産業廃棄物	最終処分	廃プラスチック類	安定型埋立（委託）	704.9
		金属くず	安定型埋立（委託）	1.9
		紙くず	管理型埋立（委託）	23.4
		木くず	管理型埋立（委託）	10.3
		繊維くず	管理型埋立（委託）	27.2
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	安定型埋立（委託）	225.6
		がれき類	安定型埋立（委託）	864.6
		鋳さい	安定型及び管理型埋立（委託）	0.0
		最終処分量合計		
	再資源化	廃プラスチック類	プラスチックの原料・熱源として再生利用（売却・出荷）	3,497.8
		金属くず	メタル原料として再生利用（売却）	2,351.2
		紙くず	古紙として再生利用（売却）	787.1
		木くず	パーティクルボード・熱源として再生利用（出荷）	4,669.3
		繊維くず	セメント原料として再生利用（出荷）、熱エネルギー	21.5
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	路盤材、土質改良剤として再生利用（売却・出荷）	3,764.5
		がれき類	路盤材、土質改良剤として再生利用（売却・出荷）	35,773.7
		鋳さい	路盤材、土質改良剤として再生利用（売却・出荷）	90.6
再資源化合計			50,955.7	
中間処理後処分量合計			52,813.6	

Ⅱ. 対象範囲（認証・登録対象組織・活動）

1. 対象組織

株式会社 都市資源開発

本社 : 〒812-0008 福岡県福岡市博多区東光二丁目16番18号

工場（本店）: 〒811-2112 福岡県糟屋郡須恵町大字植木2047番地91

佐谷支店 : 〒811-2115 福岡県糟屋郡須恵町大字佐谷1396番地10

2. 対象活動

産業廃棄物収集運搬・中間処理及びリサイクル並びに建造物解体工事業

3. 環境負荷数値に示す事業区分の範囲

- 全体は、本社と本店（事務所）、本店工場（産業廃棄物中間処理工場）、佐谷支店、解体工事のすべてを含みます。
- 解体工事は、解体工事の現場のみの数値を言い、解体工事事務作業等の現場を除く環境負荷は全体に含み解体工事数値には含まれていません。

環 境 経 営 方 針

1. 株式会社都市資源開発は、
一人一人が「自主的な環境保全の意識」を持って
環境負荷低減に向けた活動を行います。
2. 事業活動を通して環境負荷低減活動に努めます。
 - ①使用エネルギー（電気、重油、軽油、ガソリン）を節約し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ②受入廃棄物を選別し残渣減量に努め、リサイクル率を向上させることで環境負荷を低減します。
 - ③廃棄物排出量の削減に努めます。
 - ④節水に努めます。
 - ⑤化学物質使用の適切な管理に努めます。
 - ⑥環境配慮型の資機材を積極的に導入・購入します。
 - ⑦環境関連法規を遵守します。
 - ⑧経営における課題とチャンスを踏まえ環境経営の継続的な改善を行います。
3. 環境経営方針・目標を全従業員に周知します。

制定日 2007年10月2日

改訂日 2021年7月1日

株式会社 都市資源開発

代表取締役 田籠慶一

IV. 環境経営目標

- 第33期（2023年7月～2024年6月）以降の環境経営目標は以下のとおりです。
- なお、目標削減率は前年同期の目標値に対する削減率で設定しています。
- 解体工事は既設物の解体で発生する産業廃棄物を現場で分別し、リサイクルを高めることに努めています。
- 現場で発生する産業廃棄物の運搬や処分の大半は当社で行っており、営業担当や事務担当、そして事務所も共有しています。よって、解体工事の目標は全社と共通の目標設定にしています。

環境経営目標		事業区分	単位	基準年 (第29期の 目標値)	第33期	第34期	第35期
1	二酸化炭素排出量の削減	廃棄物 + 解体	kg-CO2/ 百万円	1,351.6	1,196.6 (△3%)	1,160.7 (△3%)	1,125.8 (△3%)
2	廃棄物排出量（一般廃棄物） の削減	廃棄物 + 解体	kg/ 百万円	1.223	1,196.6 (△0.01%)	1,218 (△0.01%)	1,217 (△0.01%)
3	受入廃棄物のリサイクル率向上 による最終処分量の削減	廃棄物 + 解体	t/ 百万円	4.946	4.926 (△0.1%)	4.921 (△0.1%)	4.916 (△0.1%)
4	総排水量（給水量）の削減	廃棄物 + 解体	m ³	1,572	1,565 (△0.1%)	1,564 (△0.1%)	1,562 (△0.1%)
5	化学物質使用量の適正管理	廃棄物 + 解体	kg	化学物質の適正管理に努める			
6	再生砕石の環境性能の向上及び サービスの改善	廃棄物	m ³	—	13,084.7 (+2%)	13,346.4 (+2%)	13,613.3 (+2%)
7	環境関連法規の遵守	廃棄物 + 解体	—	環境関連法規を遵守します			
8	経営における課題とチャンス を踏まえ環境経営の継続的な改善 を行う	廃棄物 + 解体	—	①e ラーニングで人材教育に 取り組む ②人材不足解消のため新規雇 用手段へ取り組む ③賃金改定に取り組む	①特別産業廃棄物の収集運搬許 可及び処分許可の取得に取り組む。 ②人材不足解消のため新規雇用手 段に取り組む。 ③福岡県及び福岡市の地域貢献活 動に積極的に取り組む。		

備考：・（ ）内は、前年目標値に対する削減率を示します。

・事業区分とは産業廃棄物処理業（事務所活動含む）と解体工事業を示します。



V. 主要な環境経営計画及び取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減（△3%）

（1）電気使用量の削減…解体も同様

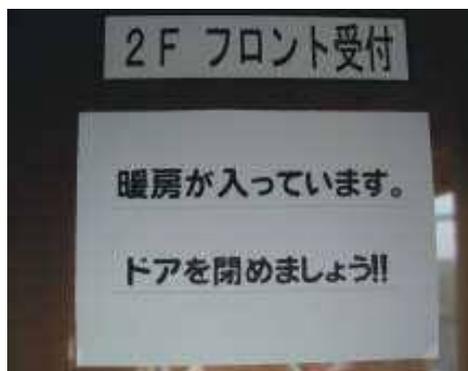
- ①ブラインドやカーテンの利用等により、熱の出入りを調節する。
- ②事務所 2 階の空調機をエコタイプに買い替える
- ③空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）を徹底する。
- ④事務室、工場などの照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯している
- ⑤空調機のフィルターの定期的な清掃・交換など、適正に管理している

（2）軽油使用量の削減…解体も同様

- ①急発進・急加速を行わない。
- ②作業時間や待機時間、走行距離の短縮化を図る。
- ③アイドリングストップを行う。
- ④煤防止のためアイドリング運転 3 分以上経過後にエンジンを切る。



エアコン設定温度厳守！



ドア閉め忘れ防止策

2. 廃棄物排出量（一般廃棄物）の削減（△0.01%）

- ①紙媒体文書から電子化へ移行し、紙媒体文書の郵送は電子メールの活用へ移行していく。
- ②両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底する。
- ③分別を徹底し、ペーパーリサイクルの効率を上げる。
- ④紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底する。
- ⑤シュレッダーの使用を機密文書などに限り、シュレッダー処理紙のリサイクルに努めている。



片面使用後のコピー用紙置場

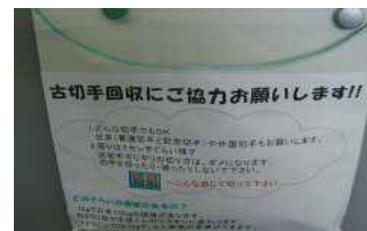
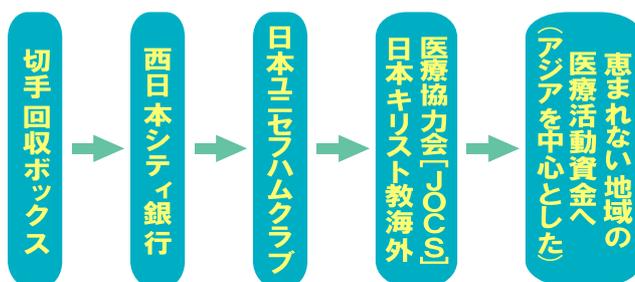


雑紙用収集BOX



ダンボールの収集

切手の回収を始めました。
社内で収集した切手は、西日本シティ銀行を窓口
日本ユニセフを通じ換金され医療活動資金となります。



切手回収袋



切手回収状況

今まで使用済みの封筒と共に廃棄されていた切手が、医療に恵まれない地域の医療活動資金へ換金されることを知り、意欲的に取り組みました。

3. 産業廃棄物の削減及び再資源化率の向上（△0.1%）

- ①売却やリサイクルができるものを把握し、現場指導をする。
- ②選別方法を改善してリサイクル率を高める。
- ③自社工場を含めリサイクルを行うことができる業者に搬出する。
- ④現場での産廃選別に努めリサイクル率を上げる。

<受入廃棄物の排出抑制とリサイクルの一例>



4. 水使用量の削減（△0.1%）

- ① 人カバルブ操作でなく遠隔による自動開閉により節水に努める。
- ② 散水（粉塵防止用）は高圧水を用いて節水に努める。

5. 化学物質使用量の適正管理（塗料）

- ① 毎月の請求書より注文数量を把握する。
- ② 自主報告書により発注の無駄の有無を把握する。
- ③ SDS（安全データシート）に基づく適正管理に努める。

6. 再生砕石の環境性能の向上及びサービスの改善

- ① 再生砕石の品質向上とデータ集計に努める。

7. 環境関連法規の遵守

- ① 法改正等を月に1回確認し、関係者に周知する。

8. 経営における課題とチャンスをつまみ環境経営の継続的な改善を行う

- ① eラーニングで人材教育に取り組む。
- ② 人材不足解消のため新規雇用手段へ取り組む。
- ③ 賃金改定に取り組む。

VI. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

1. 環境経営目標及び実績とその評価

- 第33期（2023年7月～2024年6月）運用期間の目標と実績は以下のとおりです。
- 環境目標8項目のうち、全ての項目について目標を達成する事ができました。

<全体>

環境経営目標	事業区分	単位	基準年 (第29期目標値)	第33期 (2023年7月～2024年6月)		達成状況 の判定
				目標値	実績値	
1 二酸化炭素 排出量の削減 (電気の使用量) (軽油使用量)	廃棄物 + 解体	kg-CO ₂ / 百万円	1,351.6	1,196.6 (△3%)	871.9	○
		kg-CO ₂	894,677	792,051	599,703.7	—
		kWh/ 百万円	361.4	510.5	488.0	○
		L/ 百万円	483.1	427.7	277.4	○
2 廃棄物排出量 (一般廃棄物) の削減	廃棄物 + 解体	kg/ 百万円	1.223	1.219 (△0.01%)	661	○
		kg	755	751	454	—
3 受入廃棄物の リサイクル率向上に よる最終処分量の削減	廃棄物 + 解体	t/ 百万円	4.946	4.926 (△0.1%)	2.701	○
		t	3,060	3,048	1,858	—
4 水(上水道)使用量 の削減	廃棄物 + 解体	m ³	1,572	1,565	388	○
5 化学物質使用量の 適正管理	廃棄物 + 解体	kg	化学物質の適正 管理に努める	化学物質の適正 管理に努める	0	○
6 再生砕石の環境性能の 向上及びサービスの改 善(販売量)	廃棄物	m ³	再生砕石の品質 向上とデータ 集計に努める	13,084.7	16,979.9	○
7 環境関連法規の遵守	廃棄物 + 解体	—	—	環境関連法規を遵守 します	環境関連法規を遵守 します	○
8 経営における課題とチ ャンスを踏まえ環境経 営の継続的な改善を行 う	廃棄物 + 解体	—	—	①eラーニングで人 材教育に取り組む ②人材不足解消のた め新規雇用手段へ取 り組む ③賃金改定に取り組 む	①eラーニングで人 材教育に取り組む ②人材不足解消のた め新規雇用手段へ取 り組む ③賃金改定に取り組 む	○

備考：●目標値は第23期～第25期の3年分の平均値より算出しました。()内は前年目標値に対する削減率を示します。

- 二酸化炭素排出量の購入電力排出係数は、令和3年度九州電力(株)調整後排出係数(0.392 kg-CO₂/kWh)を使用しました。
- 事業区分とは産業廃棄物処理業(事務所活動含む)と解体工事業を示します。
- 化学物質使用量は少ないため数値目標は設定せず適正管理することを目標にしました。
- 目標数値に対して実績数値が大きくかい離した場合は、目標数値を是正する場合があります。
- 次年度の環境経営目標は、15ページの環境経営目標に記載しています。

<解体工事>

環境経営目標	事業区分	単位	基準年 (第29期目標値)	第33期 (2023年7月～2024年6月)		達成状況 の判定
				目標値	実績値	
1 二酸化炭素 排出量の削減 (電気の使用量)	解体	kg-CO ₂ / 百万円	1,351.6	1,196.6 (△3%)	416.3	○
		kWh / 百万円	361.4	510.5	0.0	○
		L / 百万円	483.1	427.7	156.5	○
2 受入廃棄物の リサイクル率向上に よる最終処分量の削減	解体	t / 百万円	4.946	4.926 (△0.1%)	0.100	○

備考：●目標値は第23期～第25期の3年分の平均値より算出しました。()内は前年目標値に対する削減率を示します。

- 二酸化炭素排出量の購入電力排出係数は、令和3年度九州電力(株)調整後排出係数(0.392 kg-CO₂/kWh)を使用しました。
- 事業区分とは産業廃棄物処理業(事務所活動含む)と解体工事業を示します。
- 建造物解体工事は既設物を解体することで残骸物の大半が産業廃棄物になり、その産業廃棄物の運搬や処分は当社で行っており、営業担当や事務担当、そして事務所も共有し全体に含みます。
- 受入廃棄物の目標と実績の差が大きいのは、今期の解体物件が、鉄筋鉄骨コンクリート造が多く、コンクリートリサイクル率が高かったためです。(木造解体が多い場合は実績値が高くなります)

2. 環境経営計画の実績

当社の第33期（2023年7月～2024年6月全体）事業活動における環境経営計画の実績は以下のとおりです。

（1）二酸化炭素排出量の削減

<二酸化炭素排出量（全体）>

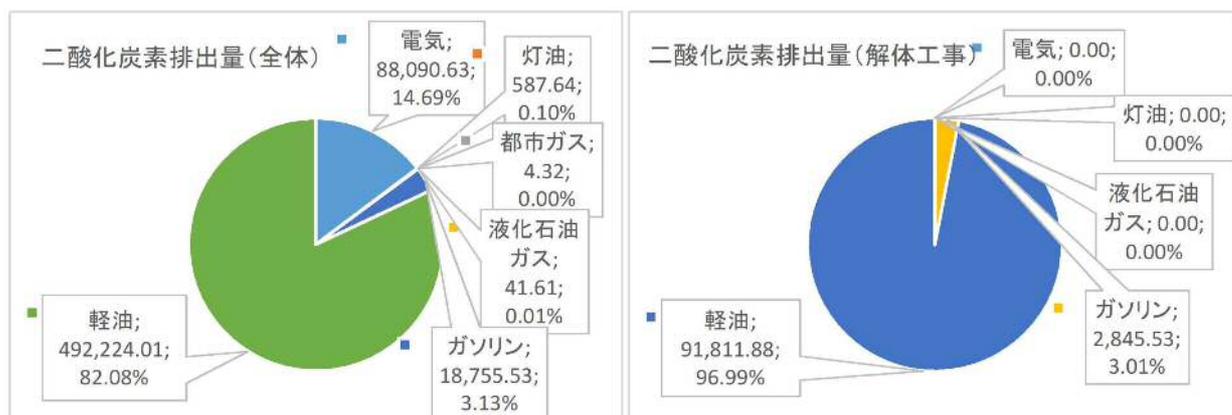
- 二酸化炭素排出量は599,703.74kg-CO₂で、燃料別の排出構造は軽油が82.08%、電力が14.69%の割合となっています。

種類	単位	使用量	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	構成比率(%)
電気	kWh	224,721.00	88,090.63	14.69%
灯油	L	236.00	587.64	0.10%
都市ガス	N m ³	2.00	4.32	0.00%
液化石油ガス	m ³	6.70	41.61	0.01%
ガソリン	L	8,084.28	18,755.53	3.13%
軽油	L	190,784.50	492,224.01	82.08%
合計			599,703.74	100.00

<二酸化炭素排出量（解体工事）>

- 解体工事に関する二酸化炭素排出量は94,657.41kg-CO₂で、全体の約15.80%を占めています。
- 燃料別の排出構造は、軽油が96.99%の割合となっています。
- 建設現場での現場事務所設置無等で現場での電気使用がなく、営業活動などは廃棄物業の事務所費用に含んでいますので、今回は0でした。

種類	単位	使用量	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	構成比率(%)
電気	kWh	0.00	0.00	0.00
灯油	L	0.00	0.00	0.00
ガソリン	L	1,226.52	2,845.53	3.01
軽油	L	35,586.00	91,811.88	96.99
合計			94,657.41	100.00



(2) 廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減(全体)

- 当社から排出する一般廃棄物は、紙類が多く、古紙回収業者を通して再資源化しています。

一般廃棄物		排出量 (kg)	構成比率 (%)
紙類、かん・ビン ペットボトル、廃プラ	再使用	0.00	0.00
	再生利用	297.00	32.67
その他可燃ごみ	熱回収焼却	148.50	65.35
	単純焼却	0.00	0.00
その他不燃ごみ	最終処分	9.00	1.98
合計		454.50	100.00

(3) 受入廃棄物のリサイクル率向上による最終処分量の削減

<産業廃棄物排出量(全体)>

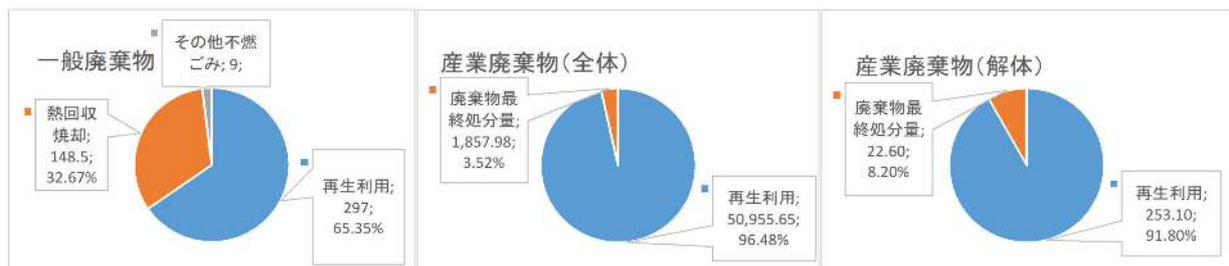
- 廃棄物最終処分量は本業である受入廃棄物を再資源化できなかったもので、その比率は3.52%まで抑制しました。

産業廃棄物		排出量 (t)	構成比率 (%)
廃プラ、金属くず、紙 くず木くず、繊維く ず、ゴムくずガラスく ず等、その他	再使用	0.00	0.00
	再生利用	50,955.65	96.48
	焼却処理	0.00	0.00
	最終処分	1,857.98	3.52
合計		52,813.63	100.00

<産業廃棄物排出量(解体工事)>

- 解体工事現場では、発生する産業廃棄物の大半が自社工場にて選別・リサイクルされます。最終処分量は8.20%まで抑えることができています。

産業廃棄物		排出量 (t)	構成比率 (%)
廃プラ、金属くず、紙 くず木くず、繊維く ず、ゴムくずガラスく ず等、その他	再使用	0.00	0.00
	再生利用	253.10	91.80
	焼却処理	0.00	0.00
	最終処分	22.60	8.20
合計		275.70	100.00



3. 第 33 期の環境経営目標達成の為の活動計画と次年度の取組内容

- 次年度の環境経営目標は、17 ページの環境経営目標に記載しています。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

- 第 33 期の二酸化炭素排出量の削減は、会社全体での総合評価において目標を達成できました。
- 2023 年 7 月で電気使用量が大きくなっているのは、コロナ感染症対策として、換気のためにドア開放でエアコン使用を許可しているのがありますが、工場での残業増加による工場電気の点灯時間が長くなったのも原因でした。
- 前期（2022 年 7 月～2023 年 6 月）に確認した本店（工場含む）の電気使用量は、前々期（2021 年 7 月～2022 年 6 月）より減少しているにもかかわらず目標達成できていなかったのは、工場電気使用量に影響しない解体工事の売上が売上換算目標値に含まれていることに気付きました。そこで、過去 2 期（第 32 期と第 31 期）の本店工場売上と電気使用量を基に売上換算目標値を再設定しました。
- 窓を開放してのエアコン使用により、フィルターが汚れやすくなりました。エアコンの稼働負荷を軽減するため、定期的にフィルター清掃を実施しました。
- エアコンの定期点検を実施しました。
- 事務所の総務部フロアと営業部フロアのブラインドを遮熱性が高いものに変更しました。
- 重機等の機械未使用時のエンジンをストップを指示しました。
- 収集車両運転においてアイドリングストップの徹底を指示しました。
- 重機運転の際、急が付く運転を控えるように指示しました。
- 産業廃棄物収集車両の入れ替えの際、低燃費の環境を配慮した車両にしました。
- 来期（第 34 期）も引き続き、節電や重機未使用時のアイドリングストップ、重機運転の際の出力を抑えるなど、二酸化炭素排出量削減に努めます。

(2) 廃棄物量排出量（一般廃棄物）の削減

- 一般廃棄物排出量の削減は、目標を達成できました。
- 当社から排出する一般廃棄物は紙類が多く、ペーパーリサイクル会社を通し再資源化されています。
- 社内外問わず、会議が集合形式ではなく WEB 会議形式へ移行していき、紙媒体の使用が減少しました。
- 古いカタログなどを整理して、不要なものを搬出しましたので雑誌類の搬出量が増えました。
- コロナウイルス感染症の影響もあり、外食が減り、弁当やカップ麺などの食品容器ごみが増えたように思えました。

- 新型コロナウイルス感染症対策でアルコール等の消毒液購入や、タオル使用を止めて除菌シートと手拭きペーパーを購入して使用しましたので、一般廃棄物が増えました。
- お中元やお歳暮で頂いた品を従業員へ配布する際に、箱を再利用することで搬出物を減らしました。
- 来期(第 34 期)も一般廃棄物排出削減に努めていきます。

(3) 受入廃棄物のリサイクル率向上による最終処分量の削減

- 当社は産業廃棄物の中間処理を業として行っております。
- 外部から受け入れた産業廃棄物を、自社のプラントで選別やリサイクル処理を行うことで産業廃棄物を減量化することに努めています。
- 本来、自社発生ゴミではないのですが、外部の産業廃棄物をどれだけ減量化し、環境活動に貢献できているかを考え、システムを見直し、更なる社会貢献につながることを出来ればと考えております。
- 受入廃棄物のうち廃プラスチックや選別困難物が多く入った混合廃棄物と、石綿含有建材の量が増加傾向にありますので、埋め立て処分場行きの量が増えてきています。
- 売却やリサイクル化ができるものを把握し、現場指導をしています。
- 顧客返却物の管理を見直し、クラウドアプリによる情報共有で、返却を徹底しています。
- 選別方法を改善してリサイクル率を高めています。
- 産業廃棄物を選別した後の、廃プラスチックの新しい出し先を確保・拡充のため、二軸破碎機を購入しました。今期は福岡県の処分許可取得の手続き中です。
- 来期(第 34 期)も産業廃棄物排出削減に努めていきます。

(4) 総排水量(給水量)の削減

- 節水活動は良好に行われ、目標を達成できました。
- 新型コロナウイルス感染症対策で、手洗い等による水使用量が増加しています。
- 年々気温が高まる中、熱中症対策としてミストの使用量が増加し、前期に比べて水の使用量が増加しました。
- 来期(第 34 期)も作業環境や各自の健康に留意しながら節水活動に努めていきます。

(5) 化学物質使用量の適正管理

- 化学物質使用量の適正管理について、対象物の購入がありませんでした。
注文数量の把握及び在庫確認、SDSに基づき適正管理に努めています。
- 来期(第34期)もSDSに基づき適正管理に努めていきます。

(6) 再生砕石の環境性能の向上及びサービスの改善

- 目標値設定のために再生砕石の販売数量を集計しました。
- 来期(第34期)からの販売目標値を設定しました。
- 再生砕石の品質向上と定期試験を行いました。
- 来期(第34期)も再生砕石の環境性能の向上及びサービスの改善に努めていきます。

(7) 環境関連法規の遵守

- 法改正等を月に1回確認し関係者に周知しました。
- 廃棄物処理法、建設リサイクル法、フロン排出抑制法など、当社の事業活動に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。
- 来期(第34期)も環境関連法規の順守に努めていきます。

法規名	主な遵守事項
廃棄物処理法	マニフェスト・委託契約の管理、許可内容変更の届出
下水道法	放流水の排出管理
建設リサイクル法	対象工事の届出、分別解体の実施
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検、引渡義務、費用負担
労働安全衛生法 施行規則	ダイオキシン類に関する特別教育及び除去作業時の管理
石綿障害予防規則	石綿取扱作業届出、石綿作業主任者の選任、石綿取扱特別教育、石綿取扱作業時の管理、健康診断の実施
福岡県暴力団排除条例	暴力団排除施策協力
大気汚染防止法	一般発生粉じん施設届出

消防法	少量危険物取り扱いの届出、掲示等
オフロード法	特定特殊自動車の基準適合表示等
騒音規制法	特定建設作業届出等
振動規正法	特定建設作業届出等
グリーン購入法	環境物品の購入
家電リサイクル法	製品廃棄の際の適正な引渡、処理料金の支払い
地球温暖化対策推進法	事業者の温室効果ガスの排出の抑制等のための措置
電気事業法	事業用電気工作物の定期検査及び年次点検の実施
道路交通法	安全運転管理者の専任、酒気帯び等の確認・記録の実施

(8) 経営における課題とチャンスをつまみ環境経営の継続的な改善を行う

- 経営における課題とチャンスの一つ目「eラーニングで人材教育に取り組む」について、四半期ごとの評価で定期的実施し、有効に運用されていることを確認しました。
- 経営における課題とチャンス二つ目「人材不足解消のため新規雇用手段へ取り組む」について、求人会社や人材紹介会社、ヘッドハンティング会社など、複数の取り扱い会社の提案を受け新しいシステムを活用しましたが、期待したほどの効果は有りませんでした。来期(第34期)も同課題を継続して取り組もうと思います。
- 経営における課題とチャンス三つ目「賃金改定に取り組む」について、2024年4月での賃金改定にて、最低賃金の基準値を超える引き上げと全国中小企業平均値を上回る上げ幅で賃金改定しました。
- 来期(第34期)は、①特別産業廃棄物の収集運搬許可及び処分許可の取得に取り組む。②人材不足解消のため新規雇用手段に取り組む。③福岡県及び福岡市の地域貢献活動に積極的に取り組む。ことを課題とチャンス掲げ、これらをつまみ環境経営の継続的な改善を行うとしました。

Ⅶ. 代表者による全体評価と見直し・指示

1. 環境経営方針・環境経営目標及び環境経営計画

- エコアクション 21 ガイドライン 2017 年版に沿って、事業活動における課題とチャンスを整理した上で、環境経営方針と環境経営目標及び環境経営計画を策定しました。
- 環境への負荷及び目標達成のための取り組み状況、環境経営目標の達成状況、その評価結果などを確認し、システムが有効であることを確認しました。

- 数年間は、今回の環境経営目標及び環境経営計画に取り組み、評価をしていきたいと思えます。

2. 取組結果とその評価と課題、並びに次年度の取組み指示

- 二酸化炭素排出量削減について目標達成していることを確認しました。
 - 軽油使用量削減について目標達成していることを確認しました。しかし、解体工事の受注減少による軽油使用重機の使用減少と、軽油を動力とする工場設備の未使用なども起因しており、消極的な評価であることから大いに喜べるものではありませんでした。
 - 前期の議題にあがっていた電気使用量削減目標値について、直近過去2年の実績値をもとに見直しを行い、電気使用量削減目標値を新しく設定しました。
 - インバウンドの増加や人々の活動範囲の広がりなどの影響で、依然として新型コロナウイルス感染が落ち着かず、従業員や家族にも感染者が発生したことで、電気使用量については、感染症対策を優先し、冷暖房使用時であってもドアや窓を解放し、十分な換気を行うことで、健康に配慮することを優先しました。
 - 夏季、夜間の気温上昇の影響でパソコンサーバーに負荷がかかり壊れそうであったため、止む無く、サーバー室の終日冷房運転を認めました。
 - サーバー専用室を作るか家庭用エアコンで節電出来ないかなど、今後の対策について前期に議題があがっていましたが、現在、事務所内装の改装について協力業者と調整中です。
 - 事務所エアコンのフィルタ清掃・洗浄が行われていることを確認しました。
 - 事務所の総務部フロアと営業部フロアのブラインドを、遮熱性が高いものに変更していることを2023年11月9日に確認しました。

 - 一般廃棄物排出量削減について、取組み内容を確認し、目標達成していることを確認しましたが、前期より増加していました。
 - FAX文書の電子化やmanifestの電子化が進んでいることを確認しました。
 - 過去の書籍やカタログなどの処分で雑誌の搬出が例年に比べ多くなっていました。
 - 一時ペーパータオル使用を中止していましたが、再び増加した新型コロナウイルス感染症の対策として、タオル使用を止めて除菌シートと手拭きペーパーの使用を再開しました。
- しばらく一般廃棄物排出量が増えますが、感染症対策を優先してください。
- 現場で発生した昼ご飯の弁当ごみの持ち帰り量が増加していました。
 - 産業廃棄物排出量削減について、取組み内容を確認し、目標達成していることを確認しました。

 - 水使用量の削減について、目標達成できていることを確認しました。
 - 新型コロナウイルス感染症対策で、手洗い等による水使用量が増加しています。
 - 熱中症対策でミスト使用量が増加し水使用量が増加していますが、職場環境保持を優先してください。

- 化学物質使用量の適正管理について、対象物の購入がありませんでした。購入の際は、安全データシートにより数量の把握と適正使用がされているかどうかを確認してください。
- 再生砕石の環境性能の向上及びサービスの改善について、再生砕石の販売数量の把握と定期試験が行われていることを確認しました。
- 再生砕石販売目標について、目標数量を達成できていることを確認しました。
- 環境関連法規等の遵守状況を確認し、システムが有効であることを確認しました。
- エコアクション21 実施体制について、最新版に更新されていることを確認しました。
- 経営における課題とチャンスについて、有効に運用されていることを確認しました。
- インターネットを通じて利用できる学習システムを「いつでも」利用できるeラーニングを探していましたが、ほとんどが定額有料システムで、利用の有無に関係なく毎月の費用が掛かり続け、また、産業廃棄物分野に特化したものがありませんでした。
そこで、行政等がネットにアップしている法改正等のユーチューブや、業界団体が開催するオンライン学習の利用や、単発講座の講習代のみ発生するようなオンライン学習を利用することにしました。
- 2024年5月に、8月（来期）から受講可能となる1級土木施工管理技士のeラーニングを申込しました。
- コロナ感染症対策に準じた業務効率化問題で、ラインワークスなどクラウドアプリの利用による情報共有を定着させ、会議などの集合を出来るだけ避けることが出来るようになりました。
- 環境に関し、外部からの苦情等が発生していましたが、早期に適正に対処できていたことを確認しました。
- 緊急連絡網が機能しているかどうかの確認、防災訓練、朝礼でのKYK（風が強い時の飛散防止と粉塵防止や降雨時の泥引き防止等）発信、月1回の緊急連絡訓練など、安全と環境を考慮した取り組みを自ら行い、また行われていることを確認しました。
- 環境経営の取り組み内容と評価を確認し、システムが有効であることを確認しました。

- 環境経営方針・目標について、7月の経営計画発表会での周知、環境経営方針・目標を各フロアに掲示、朝礼用シート配賦等により、全従業員に周知されていることを確認しました。
- 2023年2月にSDGs宣言し、環境経営を考慮した持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っていきます。
- 2024年は福岡県が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の宣言と福岡市が提唱する「働く人」のWell-beingの向上&SDGsを宣言し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っていきます。

Ⅷ. その他の環境活動取り組み等

(太陽光発電システム設置状況)



(SDGs宣言)



株式会社都市資源開発 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行います。

2023年2月3日
株式会社都市資源開発
代表取締役 田嶋 慶一

環境マネジメントシステムの推進

ひとりひとりが「自主的な環境保全の意識」を持って、環境負荷軽減に向けた活動を行ってまいります。

【具体的な取組み】

- ・エコアクション21の認証取得を10年超に渡って継続
- ・使用エネルギー（電気・重油・軽油・ガソリン）の節節による二酸化炭素排出量の削減
- ・受入廃棄物選別による残渣減量に努めリサイクル率を向上





社会貢献、地域貢献

事業展開地域や地元へ貢献できる活動を行い、企業の社会的責任を果たしてまいります。

【具体的な取組み】

- ・事業を展開する地域からの人材雇用を積極的に実施
- ・防災協定の締結を通じ災害時の廃棄物処理に協力
- ・近隣地区の清掃・除草活動への積極的な参加による地域貢献活動への取組み




働きやすい環境の整備

「人権や働きがい」に着目し、社員ひとりひとりのスキルアップ支援やより良い組織体制構築に向けた取組みを行ってまいります。

【具体的な取組み】

- ・新入社員研修、管理職研修、産廃に関する研修、労働安全・衛生に関する研修等、社内外研修を充実
- ・環境事業に関する資格取得に向けた技能講習の受講
- ・就業規則へパワハラ、セクハラ等のハラスメントに対する考え方を明文化





自然環境に配慮した企業風土の醸成

リサイクル業を通じたサービスの品質向上を図り、自然環境にやさしい企業を目指してまいります。

【具体的な取組み】

- ・作業現場における環境ルールに則った適正な分別解体の実施
- ・工場内における産業廃棄物処理を通じたリサイクル率の向上




SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

